

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171

メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: http://www.elv.or.jp/

目次

巻頭言	1
会員経済実態調査	1
編集後記	1
ELV機構便り	
東北、九州、近畿ブロック会議	2
お知らせ	2
未来政策部会	3
認定制度検討会	3
十大ニュース	3
スクラップ情報	4
編集企画	4

巻頭言

消費庁は、訪問購入規制を追加する「特定商取引法」の一部改正に連動し、自動車適用除外とするようだ。これで私たちの業界としても、ホッとすることだろう。私たちは廃掃法に始まり今の自動車リサイクル法に至るまで、様々な法規制に翻弄された歴史を持っている。しかしながら、私たちは如何なる規制が、私たちが如何なる精神の元、真摯に事を持ち進めるべきか、部会の仲間である山形の永田さんなどは、先月新工場を立ち上げたが、正に地域コミュニティまでも巻き込んで「見せる工場」の実現を果たしたのである。私たちが業界の一員として、小さいながらも自信を持って広く世間の皆様にもっと知っていただけるよう、工場作り、社員教育により一層の心血を注がなければならないと思う。

田村 幸男 (広報部会)

日本ELVリサイクル機構会員経済実態調査 H24年9月版

前号(vol.43)でご紹介した通り、ELV機構では、全国各地域団体に協力いただき、予め登録していただいた会員事業者の方への四半期ごとのアンケート調査を行い、当該月と前年同期の経済活動比較を行っています。毎回、同じ会員事業者の経済状況を比較(いわゆる定点観測)するため、数字のばらつきを最小限に抑えることができ、より実態に近い状況の把握が可能となります。また、自由記載欄を設けて、回答者のご意見を聴取しています。今回の自由意見概要は以下参照。

- 整備・板金業者が不法に部品取りを行い、後のガスを解体業者に押し付けている
- ネットオークションでの中古エアバッグの販売を取り締まるべき
- 無許可解体を行う業者を摘発するための通告窓口の設置が望まれる
- ASR削減とリサイクル促進のため、解体取り外し重量に応じたASR処理費用の破砕/解体割り振り
- 解体に要する時間が絶対的に不足。リユース促進と言いながら実態はその反対。

※次回の調査は12月です。ご意見をお寄せください。

設 問		仕入れ関連(車両)					
入庫台数	増 加	50%	変化なし	19%	減 少	31%	
今後3カ月の入庫見通し	増 加	19%	変化なし	19%	減 少	62%	
仕入単価	増 加	17%	変化なし	46%	減 少	37%	
市場規模売上関連(部品)							
国内部品販売	増 加	23%	変化なし	38%	減 少	39%	
今後3カ月の国内部品販売見通し	増 加	23%	変化なし	42%	減 少	35%	
輸出部品販売	増 加	19%	変化なし	31%	減 少	50%	
今後3カ月の輸出部品販売見通し	増 加	8%	変化なし	25%	減 少	67%	
市場規模売上関連(資源)							
資源販売	増 加	17%	変化なし	21%	減 少	62%	
今後3カ月の資源販売見通し	増 加	6%	変化なし	29%	減 少	65%	
その他	増 加	0%	変化なし	35%	減 少	50%	
経済指標							
収益動向	増 加	10%	変化なし	23%	減 少	67%	
今後3カ月の売上見通し	増 加	6%	変化なし	25%	減 少	69%	
資金繰り	良 い	2%	普 通	58%	悪 い	40%	
総売上	増 加	13%	変化なし	23%	減 少	64%	

編集後記

▽いよいよ平成24年もその幕を閉じようとしている。多事多難の年であったとの印象を拭えない。会員事業者は各社各様ではあったと思うが、余り良い話は聞こえてこなかった。▽年末に政権が代わり、状況の改善に期待するが、残念ながらこれまで裏切られ続けた身として自然に疑いの視線になっってしまう▽一方、年央に執行部などに大幅な変化があった機構では、さまざまな新しい取り組みがスタートした。「未来政策部会」、「リサイクル資源格認定制度検討会」、「耳慣れない体も設置された取り組み」など、新たな動き。今後その内容、進捗についてできるだけ詳しく報告するが、会員の皆さんも、是非関心を持って見守って頂きたい▽編集委員会が選んだ本年の十大ニュースを掲載した。会員各位におかれども、それぞれの十大ニュースがあったことと思う。是非、投稿してみませんか。▽今年も終わろうとしています。読者の皆様がいよいよ新年を迎えられますよう。新年号は、一月二〇日前後の予定。(編集子)

～東北ブロック会議 開催報告～

平成24年度第1回の東北ブロック会議が11月7日(水)13:00より、仙台市内 パレスへいあんにて開催され、青森を除く東北ブロック5県の地域団体代表が出席しました。また、ELV機構から酒井総務部会長他が出席し、また、関係者として、経済産業省、環境省、経産省東北局、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構、スズキ(株)などからの参加がありました。

会議では、冒頭に各県の代表による近況報告が行われ、つづいてELV機構上期活動報告及び下期活動計画、昨年に引き続いて環境省より受託した回収高度化事業の説明、更には、東北ブロック上期活動報告、下期活動計画の報告がありました。

また、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構、スズキ(株)からの連絡事項に続き、経済産業省、環境省のご担当者を交えての意見交換会が行われました。□

～平成24年度第3回九州ブロック会議～

平成24年度第3回の九州ブロック会議が去る11月25日、福岡市博多区のサンライフ2・3ホテルにおいて、九州ブロック各県地域団体代表者出席のもと開催されました。

冒頭、湯浅ブロック長により、ELV機構の上期活動報告ならびに下期の活動計画の概要説明があり、続いて、昨年に引き続き、環境省から受託した回収高度化事業の概要説明が行われまし

た。今回の回収高度化事業に関しては、エンジンコンピューター・エアバックコンピューター・エアバッグカプラー等3品目の回収が行われるとの説明があり、実証実験で対応する目標台数の振り分けに関する報告がありました。

引き続き、各県代表より各地域現状ならびに仕入状況の報告が行われ、出席者間での意見交換が行なってブロック会議を終わりました。□

～平成24年度近畿ブロック会議～

平成24年11月17日(土)13:00より大阪豊田ビルイベントフロア第5会議室において、近畿ブロック会議が自再協 三洲マネージャー、スズキ(株)担当者、ELV機構 各地域団体代表者、本部 伊丹副代表理事、吉川副代表理事、事務局の参加により開催されました。前半はELV機構上期活動報告及び下期活動計画の報告、環境省より受託した回収高度化事業Ⅱの説明及び意見交換が行われ、本部とのコミュニケーションのあり方などについて議論されました。

後半は、スズキ(株)より新型ワゴンR搭載のリチウムイオン電池の回収スキームに関する説明、自再協より今年度上期のエアバッグ類 車上作動処理業務における措置実施等についての報告の後、意見交換が行なわれ、引き取り業者に対する指導強化などの要望を行った。会議終了後、懇親会が行われましたが、メールや電話だけではなく、実際に会って話を聞くことの重要性を再認識したブロック会議でした。□

～お知らせ～

日本ELVリサイクル機構では、webサイト活用の効率化を図るため、正会員、賛助会員などを対象に、ホームページに掲載するバナー広告の募集を行います。

ELV機構のwebサイトには、本ニュースレター他、機構が発信する各種情報が掲載されているほか、リサイクル法の運用に関する関係省庁からの情報、自動車再資源化機構(自再協)や自動車リサイクル促進センターなど関係機関からの情報などが掲載されており、自動車リサイクル業界にとって、重要な情報ソースとしての役割を果たしています。

Webサイトに定期的に掲載されるELVニュースレターは、現在、ELV機構の正会員、賛助会員700社強の他、関係省庁、地方自治体関係者、関連団体などが購読(無料)しており、これら読者が機構webサイトへアクセスする頻度は極めて高く、その意味で、皆様が関係先に対して情報発信されるためにお使いいただく媒体としては極めて有効であると考えます。

現在、ELV機構広報部会がwebサイトの維持・管理を行っており、今後、バナー広告掲載に向けて必要な変更、手直しを行い、年明け早々には、本格的な募集活動を開始する予定です。各位におかれては、是非機構のwebサイトの活用を、各社の経営・広報戦略の一部として活用する方策をご検討いただき、正式募集に際しては是非ともご利用されますようお願いいたします。

日本ELVリサイクル機構ホームページ

End-of-Life-Vehicle Information System

jaera
Japan ELV Recycler's Association 一般社団法人 日本ELVリサイクル機構

TOP PAGE 自動車リサイクル JAERAとは 一般ユーザー様へ 入会案内 会員一覧 会員専用

平成23年11月より会員向けメールマガジンを開始しました。

配信をご希望の方は、本ページ下部「お問い合わせ」よりJAERA事務局までお問い合わせください。

日本の自動車リサイクル JAERAとは 一般ユーザー様へ 入会案内 会員専用 関連リンク

環境と経済の調和を求めて
私たちの生活を支え、喜びとゆとりをもたらしてくれる自動車。そんな自動車もいつかは使命を果たし、使用済みとなります。
一般社団法人日本ELVリサイクル機構とその会員企業は、社会から参画した「使用済み自動車」の適正処理を担い、地球環境の維持・改善と資源の循環に貢献するため、3R(Reduce)の推進と処理技術の高度化に取り組んでいます。
また、日本ELVリサイクル機構は、解体業界唯一の全国組織として、業界の発展、社会的地位向上に向け、対外広報活動、業界意見の取りまとめとその他の取組を行います。その一環として、政府の審議会等への委員推薦等を行い、解体業界の立場を国の政策に反映するよう努力しています。
※ Reduce (廃棄物の削減)・Reuse (再利用)・Recycle (資源循環) により循環型社会を構築する手段

新着情報
平成23年度 使用済み自動車適正処理 全国地域団体連携会議開催のご案内
平成24年度より恒例的に実施している「フロント・エアバック類の適正処理の全国地域団体連携会議」を本年度も開催する運びとなりました。本機構は、当協議会を中心にフロント・エアバック類を含む使用済み自動車適正処理の知識、技術の異なる普及活動として実施します。また、本年は、自動車駆動用電池の取扱いや東京電力福島第一原発事故で問題となっております放射能の知識、測定方法などを盛り込んだ内容となっております。つきましては、自動車リサイクル関係事業者の皆様にも、是非ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

1st/2nd更新 全国地域団体連携会議開催日程 (PDF形式)
2012/11/20

各都道府県事務局サービスのご案内
独立行政法人 高度・産業・労働者雇用支援機構は、各都道府県事務局サービスを行っております。詳しくは、パンフレット「各都道府県雇用支援サービスのご案内」をご覧ください。

「E」機構のホームページから皆様のウェブサイトに直接リンクできます。ビジネスチャンスの拡大にご活用ください。

- ①ホームページ左下の色枠がバナー広告掲載位置です。
- ②利用者が用意するデザインでバナーを作成します。
- ③バナーをクリックするとご指定のリンク先(ご利用者のホームページなど)に直接アクセスできます。

～未来政策部会 開催報告～

平成24年12月4日(火)10:00よりELV機構本部会議室において、第2回未来政策部会が開催されました。今回の部会では、次世代経営者を含む若手の育成活動の一環として、経済産業政策局 調査課 課長補佐の笠原誠様をお招きし、「我が国の経済情勢について」の講演会も合わせて開催しました。参加者からは多数質問が出るなど、活発な意見交換も行われました。(参加者20名)

また、午後からは会員の皆様から寄せいただいた「自動車リサイクル法見直しに向けたアンケート」の集計・検討を実施しました。□

～第1回自動車リサイクル資格認定制度検討会～ (報告)

平成24年11月29日(木)13:00よりELV機構本部会議室において、第1回自動車リサイクル資格認定制度検討会が開催されました。

経産省、環境省、促進センター、自再協の担当者にご出席いただき、現時点での自動車リサイクル資格認定制度の概要(案)を説明し、意見交換が行われました。その結果、①今回の資格制度はELV機構の自主的な取り組みである ②受講資格者は会員限定ではなく、「門戸を広く、オープンに」を原則とする ③関係団体の方々にご協力いただき、協議を重ねて詳細をつめていく などが確認されました。□

編集委員会が選んだ

“2012年ELV機構十大ニュース+α”

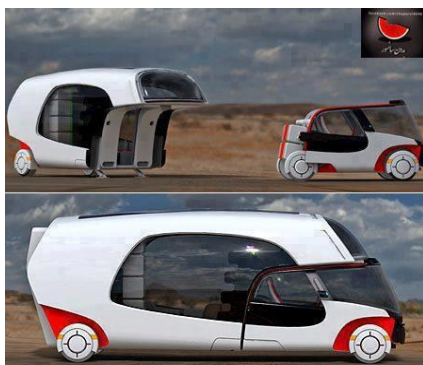
- ①河村新体制発足(河村二四夫代表理事就任で新体制へ)
 - ②高度化事業再度受託(昨年に引き続き、実証事業受託)
 - ③解体資格制度検討委員会の発足(まだまだ先はあるが、貴重な一步を踏み出した)
 - ④仙台市から感謝状(被災車両の撤去、リサイクルに努力)
 - ⑤ELV機構、環境大臣により表彰される(被災車両撤去活動への貢献に対して)
 - ⑥鉄・スクラップ価格の下落
 - ⑦政権交代の影響(先ずは円安株高の出だしたが、いつまで)
 - ⑧認定事業者制度開始(業界永年の夢実現に向けた貴重な一步)
 - ⑨社員交流会位(結束強化に向け、風通しの良い組織を)
 - ⑩自工会希少金属情報開示(資源循環に向けた追い風となるか)
- エコカー補助金(9月に終了。流通に変化)
- 産業構造審議会(リ法10年目の評価間もなく開始)
- 発煙筒スキーム(長期間にわたる検討に終結、果たして有効に働くのか)
- 相澤さん入社(ELV機構事務局のニューフェイス。相澤さん、頑張ってください！)
- ※読者の皆様が選ぶ2012年のニュースを教えてください。

編集委員会

とびっくす

著 名なアメリカの雑誌フォーブス(Forbes)恒例の、世界の有力者(Most Powerful People)ランキングが発表された。今回は、地球上の人口が71億人に達したのを機にトップ71人を選んでいる。先ずトップ10を上げる。

バラク・オバマ	米国大統領
アンゲラ・メルケル	ドイツ首相
ウラジミール・プーチン	ロシア大統領
ビル・ゲーツ	マイクロソフト会長
教皇ベネディクト16世	ローマ教皇
ベン・バーナンキ	米国連邦準備制度理事会議長
サウジアラビア王	サウジアラビア王
マリオ・ドラギ	欧州中央銀行総裁
習近平	中国共産党総書記
デヴィッド・キャメロン	英国首相



こんな車が市場に登場する日も遠くない。ところで、後ろ部分はリ法の対象でしょうか？

金

今年の漢字

日本漢字検定協会が発表した今年の「漢字」にこの文字が選ばれました。25万8912通の応募中「金」は9156通を獲得。金環日食のほか、ロンドン五輪での日本人選手の活躍や、東京スカイツリーの開業、山中伸弥教授のノーベル賞受賞などで、「多くの金字塔が打ち立てられた」ことが理由に挙げられた。□

主 要国のリーダー、中央銀行の代表、トップビジネスマン等が上位にランクされているが、残念なことに我が国の関係者は見当たらない。日本人のトップは40位に白川方明 日銀総裁、43位に豊田章男 トヨタ自動車社長、53位に孫 正義 ソフトバンク社長、60位に野田 佳彦首相がランクインした。キム・ジョンウン(金 正恩)北朝鮮最高指導者が44位にランクわれているのを見ると、「実力者」の意味も様々なようで、良い、悪いは別にして世界の関心事に影響を持つ人という意味に解釈すべきだろう。それにしても、ドイツの首相が2位、英国首相が10位、イタリアの首相が29位にランクされているのに対して日本の首相が60位といのは納得できないと思われる向きも多からうが、この雑誌が掲げる次の4つの判断基準をご覧いただければ、それも見えてこよう。

- どれだけ多くの人の上に立つ力があるか
- どれだけ多額な資金をコントロールすることができるか
- どれだけ広範な領域で実力を発揮しているか
- その人が、もてる実力を真に活用しているか

最 後に今回71位までにランクインした女性を紹介する。

2位:メルケルドイツ首相、12位:ソニア・ガンディーインド国民会議総裁、18位:ジウマ・ルセフィブラジル大統領、38位:クリスティーヌ・ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事の5氏だ。□

2012年のスクラップ市況動向

～大局のトレンドは下落傾向～

2012年は、国内の鉄鋼需要が伸びなかったこと、海外からの突出した引き合いがなかったこと、高炉の鉄スクラップ購入量が大幅に減少したことなどから、鉄スクラップの需給が比較的緩くなり、大局のトレンドは下落の動きとなった。欧州をはじめ世界的に経済状況の改善の兆しが見えない中、中国の粗鋼生産量は今年も多く、安価な鋼材が中国国外へも多量に出荷され、世界的に鋼材製品自体の価格が低迷した影響も大きかった。

2012年のH2平均価格は2万7千円前後に
2012年の鉄スクラップ市況をここで振り返る。主要3地区のH2炉前総合価格（日刊市況通信社調べ）は年初、3万1400円で始まった。その後は2月第1週まで小幅に下落が続き、2万9千円を割り込んだところで一旦底入れし、3月入りにかけて再び上昇。4月第1週には3万2767円と今年最高値を付け、4月中旬までは小幅な上下はありながらも概ね3万2千円前後で推移した。しかし、4月後半に3万1千円を下回ってからはジリ安の展開となり、さらに5月中旬から6月入りにかけては一気に2万5千円前後へと急落した。ここからはしばらく様子見横ばいの推移となり、8月中旬を迎えた頃に小幅に上昇するも長続きせず、ほどなく市況は再び下落基調となった。それから10月末まではほぼ毎週のように値下がりとなり、10月第4～5週には2万833円と、今年最安値を付けた。11月入り後は鉄スクラップの輸出価格が上昇したことを発端に全体の市況も上向いており、12月第2週は2万3967円へ回復、鉄スクラップ相場は強基調で年末を迎えている。

H2炉前総合価格の年間平均価格は、2010年が3万1345円、2011年が3万4255円、2012年は2万7千円前後になると見られる。2012年の年間平均価格は前年比で7千円以上下落することはほぼ確実だ。

なお2012年の韓国向け日本H2の最高値は3月第5週の3万4000～4500円（FOB）、最安値は10月第2週の2万2500～3000円（FOB）。欧米のトルコ向けHMS1&2(80:20)の最高値は1月10日前後の470ドル弱（CFR）、最安値は10月10日前後の350ドル前後（CFR）。

編集企画
～日本再生への道～ その2

第一回に引き続いてエネルギーの話です。中東の産油国であるカタール、UAE、サウジなどの目を見張る繁栄が続いています。カタール国民一人あたりのGDPが何と20万ドルとけたはずれた額ですし、カタールの実業家が英国の有名デパートを買ったといった話が世間を沸かせています。また、2011年の「アラブの春」でリビアの反政府組織を支援していたのもカタールと言われており、何でも可能な産油国の代表格と言えます。何が言いたいかというと、今の世の中はエネルギーで回っているということです。アメリカは対中東問題で疲れ果てています。イラクとの戦争では6500人もの若者たちを死なせ、3兆ドルの金を使い、それが赤字となってアメリカ経済に重くのしかかってきています。ところがアメリカでは、今年に入り新エネルギーと言われている

2013年の鉄鋼需給と鉄スクラップ相場の見通し

日本鉄鋼連盟は12月18日、「2013年度の鉄鋼需要の動向について」を公表した。これによると、2013年度の国内鉄鋼需要は「消費税増税前の駆け込み需要や設備投資の回復等から建設分野は増大が見込まれるものの、製造業分野では造船向けの減少に加え、海外生産シフト等によって自動車・産業機械・電気機械向けも力強い回復には至らず、全体では前年度比微減程度に止まる」との予想だ。海外鉄鋼市場については「鉄鋼需要は比較的堅調に推移している。しかし中国・韓国における大幅な鉄鋼生産能力増強の影響を受け、アジアの鉄鋼需給は大幅に緩和しており、2013年度も競合激化は避けられず、鉄鋼輸出が前年度を若干下回る一方、輸入は高い水準が継続する」と分析。この結果、2013年度の日本の粗鋼生産は前年度水準の1億600～700万トンを若干下回る、という見通しだ。

また、普通鋼電炉工業会の栗川勝俊会長（合同製鉄社長）は12月度の会見で「2013年の小棒需要は『良くて横ばい』。関西電力などの電力料金の値上げによるコスト負担も懸念材料。都市部と地方の地域差も広がる」という認識を示している。

こうした状況を考えると、日本の2013年の鉄スクラップ市況も急騰は考えにくく、2012年と同様に2万円台から3万円台前半を行き来するボックス相場となる可能性が高い。ただ、韓国等の海外の価格動向や為替相場により輸出向け価格が引き上げられ、これに伴い日本の国内価格も上昇、前述のボックス相場圏を一時的に上回ることも考えられる。□

12月21日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	28,000	～ 28,500	値上がり
	南関東	28,000	～ 28,500	値上がり
名古屋		25,500	～ 26,500	値上がり
関西	大阪	26,000	～ 26,500	値上がり
	姫路	26,500	～ 27,000	値上がり

この情報は、株式会社日刊市況通信社のご厚意で提供されたものを転載したものです。

シェールガス開発の目途がついたことから、中東への依存度を低下させる可能性が強くなったと言われています。これまでの中東対応におけるアメリカの動きには壮絶なものがあります。アメリカとイランの蜜月関係は長く続きませんでした。うまく取り込んでいたパーレビー国王が台頭してきた宗教指導者ホメイニ師に追われ、イランは一挙に反米国になります。そこでアメリカは、敵の敵は味方との考えから、イラクのフセイン大統領を全面的に支援し、イランと戦わせました。結果、イランとアメリカの溝はますます深くなって行きます。一方、戦力強化により増長したフセインがクウェートに侵略するといった暴挙にでます。フセインは、それをアメリカが見逃すとたかを括っていたのでしょうか。調子に乗りすぎたフセインをアメリカが叩くのですが、その見返りが先に述べた大量の犠牲者と負債でした。フセインをおだててイランと戦わせたアメリカにも責任の一端があると言えるでしょう。 □

（第二回完）